

八ヶ岳連峰：阿弥陀岳（南稜）

- ◆日程 2024年3月16日（土）
- ◆メンバー L：TY、SD、OT、IZ
- ◆天候 晴れ



横浜 2 時発、前夜でも早朝発でもない長い一日が始まった。L はじめ 3 人はこの冬、ツルネに天狗尾根と南八ヶ岳へ通っている。わたしは昨年 X'mas イブに初阿弥陀岳（行者小屋から）、そして雪の岩自体が初挑戦。日帰り装備とはいえ 12 時間行動、体力精神力の配分が重要だ。駐車場所には車 1 台、ルート上には他パーティの痕跡も気配もなかった。急登ひと登りで尾根に乗り高度を上げていく。行動中は暑く休憩中は冷え、衣類調整に忙しい。風は強く「八ヶ岳に来たんだな」と感じる。車の中で TYさんと話した通り、核心部までに消耗しないことを目指し、力みすぎず淡々と足を運ぶ。樹林帯は順調で CT より 1 時間ほど前倒し、少し安心する。アオナギのあたり展望が開け視界いっぱい阿弥陀岳が迫り歓声上がる。年末の北東からのアプローチとは逆面を見ているわけで、一つのルートから登っただけでは山の一部しか知らないのだな、大好きな「自分の山」をもちあらゆる尾根・沢から登れたら、もっと好きになるのかなと感じた。荘厳な白い権現岳、優美な南ア千丈ヶ岳、春霞の向こうの御嶽、中ア千畳敷カールが印象に残った。富士山も見守ってくれている。

無名峰を過ぎ P1 は大きく巻くことになりこの後何度も出てくるトラバースの練習になった。トランシーバーを準備、P3 基部はロープを出し通過。支点となるワイヤーは一部が雪に埋まっている。TYさんトップで登攀開始。ルンゼに入ると姿が見えないがロープはどんどん出ていき気持ちよく登っているのが伝わる。風は予報通り弱くなっていく、見渡す限り雲もない。核心部を目いっぱい楽しもうと心に描く。フォローで登り始めると確保されている安心感もあり「ルンゼ楽しい〜!!」。リード交代した 2 ピッチ目は、岩に張った薄い氷に恐怖しつつ充実感とともに「ビレイ解除〜」。

続いてルートを探しながら先頭を歩かせてもらう。2 か所ほど下が切れ落ちたトラバースがある。悩んだ挙句、1 本のピッケルより 2 本の手のほうが安心と、ピッケルをハーネスに脇差にし岩をつかみクライミングの要領で解決した場面もあった。SDさんから「一番得意なやり方でいいんだけど、落ちた場合にピッケルが手にないと止まれない」と指摘。その通りです…。先頭を交代した OTさんが山頂で雄叫びを上げる。4人でがっつりと握手。

下りの御小屋尾根がまた長く、気を抜かないぞと念じていく。日射で雪が緩み滑りがち、アイゼンにだんごもつくが皆サクサク降りていく。自分は傾斜の怖さで体が硬く息が荒くなり余計に疲れる、なるべくリラックスを心掛けたがまだまだだ。

OTさんは「一度行きたいと思っていたルート」、十数年前にテン泊で来て以来の TYさんは「冬のバリエーション入門、みんなで登れてよかった」、4年ぶりの SDさんは「やっぱりロープは使った方がいいなと思いました」（原生林 2020年3月号参照）と語ってくれた。今回共同装備の負担もなく、ペースなど終始気遣いいただいた。感謝とともに成長を誓う日となった。

登山用品店に行くたびにピッケル売り場で 2 本目を物色してしまいそうだ。（記：IZ）

CT：船山十字路 5:30 - 立場岳 8:10 - P3 11:00 - 山頂 14:10 - 船山十字路 17:45

